山口県 角島大橋（撮影：野村）

曽於医師会立病院広報誌

かけはし

地域の皆様へのお便りです

Vol. 3
発行日
2023 年 1 月吉日

新年のご挨拶

院長　吉留 伸郎

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は曽於医師会立病院に沢山のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。
これからも地域の皆様の健康を守るため、職員一同ひたむきに職責を果たして参ります。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

お正月は幾つになっても嬉しいもので、なぜか心がウキウキしてしまいます。幼いころの体験や感情が体に染み込んでいるのでしょうか。親戚一同が祖母の家に集まって、おせち料理やお雑煮を食べたり、子供同士でコマ回したり、凧揚げしたり、羽子板したり、顔に墨で丸書かれたり・・・当時のことを思い出すと懐かしさがこみ上げてきます。お正月のメインイベントといえば、やはりお年玉をもらえる瞬間で、それまでは大人しくお行儀良くして、その儀式さえ無事クリアすれば、後ははしゃぎ回っていたように記憶しています。そういえば、その当時、ほとんどの家の玄関にはしめ縄が飾ってあって、車のフロントグリルにもミカンが乗った小さなしめ縄が取り付けられていました。時々、そのミカンが道路に落ちて、「もったいないなぁ」って、子供心に思うことでした。最近、車のしめ縄は見かけなくなりましたが、どこへ行ったのでしょう？　検索してみると、車のデザインにしめ縄が似合わなくなった、車が神聖化される特別な存在でなくなった、正月文化が希薄になった等で徐々に付けられなくなったようです。ごく当たり前の話ですが、日本全国で行われていた風習が消えてしまう時代の移り変わりに少し寂しさを感じます。

さて、令和５年、西暦 2023 年が始まりました。皆さんのお正月は如何だったでしょうか。ゆっくり休養をとって家族と楽しい時間を過ごされた方もいらっしゃるでしょうし、仕事三昧だった方もいらっしゃると思います。私はというと、除夜の鐘を聞きながら、病院へ車を走らせ、令和 5 年第１例目のコロナ患者さんを診察しました。「令和５年こそコロナ退散！」と願っていましたので、年明け早々コロナと勝負できることは良いことと、勝手に解釈してしまいました。

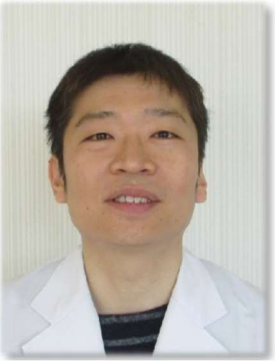
毎年、正月は目標とする言葉を心の中に掲げることにしています。心の中のことなので、ついつい自分に言い訳をしてしまい、その達成率は高くありません。今明かしますが、１年前の令和４年の目標は「挑戦」でした。理由は、ちょうど還暦を迎えて間もない頃で気持ちが前向きだったということと、亡き父に教えられた「泣こかい、飛ぼかい、泣こよかひっ飛べ」という言葉が頭に浮かんだからです。昨年は挑戦する機会にめぐまれましたが、心の中の言い訳が度々顔を出し、けっして満足のいく結果ではありませんでした。そこで、院長就任後 2 年目となる令和 5 年の目標は性懲りもなく「挑戦、再挑戦」と決めました。「シン挑戦」というのも考えましたが、どこかの立候補者のようなので止めました。

歳を重ねると、物事の成り行きやその結果を経験上、予想できると錯覚して、挑戦することを面倒くさいと避けてしまいがちです。一度成功したことは再度行っても興味を惹かれないし、もしも失敗してしまったら自信喪失するかもしれません。ましてや、「一度失敗したことに再挑戦することなんて、絶対無理！」と最初から諦めているのではないでしょうか。確かに歳をとると不可能なことが増えてくるでしょう。じっと動かず、安心安全な態度が無難なのかもしれません。でも、行動することで何かが起きて次々と良い方向に変わっていくことがあるかもしれません。歳をとっても、初めてのことに臨もうとすれば、ドキドキして緊張するし、ワクワクして顔がにやけることも経験します。昔、挑戦したことに再度挑戦する場合は、以前と同じ経過、結果には意外とならず、もし同じ結果になったとしても想定外の景色を観られる驚きがあります。そして、その景色で感動するか、落胆するかは、辿り着くまでの自分の想いの強さ次第です。

曽於医師会立病院という大きな船を、よどみないしっかりとした流れに乗せるため、今年 1 年、いろいろな「挑戦、再挑戦」を行って参ります。地域の皆様におかれましては何かとご心配をお掛けすることが多いかもしれませんが、皆様の健康を守る曽於医師会立病院を今後とも存続させるため、職員共々、日々努力してまいります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

麻酔科のご紹介

麻酔科部長　米満　亨　医師



いつも大変お世話になっております。平成29年4月から曽於医師会立病院創設以来初の常勤麻酔科医として勤務しております米満です。今更ですが、なぜ私が当院で勤務するようになったのか不思議だと思いませんか？まっ、ザックリ言いますと、私と家族が前任の藤元総合病院勤務時代から都城市での暮らしを気に入っており、人事異動によって都城市を離れたくないとのワガママで、都城市から通勤圏内の常勤先を医局に配慮いただいたところであります。なので、都城市内に次の勤務先が見つかるまでの腰掛的なつもりでいましたが、なんだかんだで、もう6年が経とうとしております。曽於医師会立病院は居心地が良いのかもしれません。

曽於医師会立病院に来てからの6年を振り返りますと、着任当初は常勤麻酔科医が来たということで手術が溢れかえり、並列麻酔に並列麻酔で何とか手術を回していく自転車操業的な感じで大変でした。ご存知の通り、患者さんは、高齢者（時には超の付く）が多く、また曽於医師会立病院の限られたマンパワーの中での並列麻酔では、結構危ない橋を渡って来ました。ただ、外科医に要望に応えるべく、なるべく断らない麻酔をモットーに、安心安全な麻酔を提供できるよう心掛けてまいりました。私の知る限りでは、これまで麻酔による大きなトラブルはなく、良かったです。時は流れ、周辺の医療体制の変化なのか、コロナの影響なのか、ここ数年、当院における手術件数はかなり減っています（表参照）。手術件数の増減については、麻酔科医が関与できるところは少ないですが、これからもなるべく断らない麻酔をモットーに、安心安全な麻酔を提供できるよう努めてまいります。

気が付けば、曽於医師会立病院常勤医8名の中で私は永田副院長、才原名誉院長に次ぐ古株となりました。着任時にいた外科と整形外科の先生は皆入れ替わりました。私の場合、まだ医局に属しておりますが、ほぼ人事から外れており、異動もなければ補充もないといった感じで、当院における最初で最後の常勤麻酔科医であることが確実のようです。

この原稿を書いている令和4年12月中に次期鹿児島大学病院麻酔科教授が決まる予定ですが、ここ数年、麻酔科医局員は減少傾向にあります。ちなみに前任の藤元総合病院は令和5年1月から常勤麻酔科医1減で、鹿児島大学からの派遣は1名のみとなります。大隅半島においては鹿児島大学から常勤麻酔科医を派遣しているのは鹿屋医療センター2名だけです。大学病院では麻酔科医不足を補うため、歯科医師や特定看護師による麻酔管理が増えております。さらには医局から、麻酔科医を派遣している各関連病院へ、月に1回程度、大学病院に麻酔応援に来るように要請もあり、何とかやりくりして大学病院での膨大な手術件数を回しているようです。次期麻酔科教授には麻酔科医局の立て直しが期待されます。鹿児島大学からは松永明准教授が立候補して、最終選考の3名に残っております。

さて、もう一つのライフワークであるペインクリニック外来の紹介もさせていただきます。毎週月曜と金曜の午前にさせてもらっています。第2、4土曜は開店休業状態です。相変わらず患者数は伸び悩んでおりますが、

麻酔科管理による手術件数の推移

（局所麻酔、セルフ麻酔は除く）

年度	手術件数
平成29年度	532 件
平成30年度	481 件
令和元年度	509 件
令和2年度	413 件
令和3年度	347 件

藤元総合病院勤務時代からの患者さんもいまだにわざわざ来てくれているので、これからもボチボチ続けさせてもらおうと思います。一方で、昨年から鹿屋でしている非常勤のペインクリニック外来は、軌道に乗り、多数の患者さんに来ていただき、当院との患者数のギャップに驚いております。やっていることは同じなのですが、どうしてこのようなギャップが生まれるのか、私なりに検証してみますと、やはり需要と供給のバランスかなと思います。他にもいろいろな要因はあると思いますが、当院ではあまり需要がないのだと諦めています。まっ、ペインクリニック外来が午前中にキッチリ終わってくれるおかげで、午後からの手術麻酔に支障を来さないというのはメリットであり、当院における私の唯一無二の貢献は麻酔業務であると自負しておりますので、これからもなるべく断らない麻酔をモットーに、安心安全な麻酔を提供できるよう努めてまいります。ちなみに、救急外来業務も不慣れで、私の救急当番日には多々ご迷惑をおかけしております。こんな私(麻酔科)ですが、今後ともお引き立てくださいますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

(追伸)先日、娘たちの通っている小学校のキッズワークショップ(職業体験)で講師をしました。毎年、テレビ(宮崎 UMK)の取材が来ます。今年、初めて夕方のニュースに2秒くらい映って、家族で大騒ぎしました。大事な医療機器の持ち出しを快く許可してくれた曽於医師会立病院に感謝しています。

新任医師紹介

整形外科
大西　啓志朗　先生

出身：鹿児島市
前任地：米盛病院
趣味：スポーツ全般

10 月1日より曽於医師会立病院に赴任となりました。整形外科4年目の大西啓志朗と申します。外傷を中心に診療をさせていただいております。地域医療に貢献できるように精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

11 月 21 日 緊急コール訓練を実施しました

① 「人が倒れている！」と来客からの知らせで職員がかけつけました。駐車場で倒れている人を発見し、状態を確認・応援要請をしつつ心臓マッサージを開始します。

② 院内放送で「救急コール 第2駐車場―」を聞いた職員は応援にかけつけます。

③ 交代で心臓マッサージをしながら、身元などの確認を進めていきます。「人」・「物」が集まったら指揮者の指示で救急外来へ。

④ 救急外来に収容したら、医師の指示に従いながら心肺蘇生処置が行われます。院内全体で救命にあたり、いざという時のために訓練しています。

栄養士室より　～給食室・管理栄養士　業務紹介～

管理栄養士　　重久　成子

　現在、管理栄養士３名、常勤調理師８名、非常勤５名（退職予定２名）が在籍し、シルバー人材に月15回ほど洗浄業務等を委託しています。当院の給食室も業者委託を検討しましたが、諸事情で現在も直営です。直営の利点は、地産地消を目標に地元から納入できることです。地元産の生鮮食品は新鮮で美味しく、郷土メニューも取り入れ、手作りのつゆ、自家製たれは好評です。人気メニューは自家製のタルタルソース、南蛮風料理の魚のラビゴットです。患者さんの細かい希望など融通が利くのも直営の良さだと思います。患者さんの食事開始・変更等も即座に対応しています。その反面、食種ごとの献立作成、発注、在庫管理、調理師のシフト作成など業務内容が煩雑になり、更に新型コロナウイルス感染予防もあって管理栄養士も給食業務や食材の搬入等を行っています。

　診療報酬が改定され栄養指導の対象疾患として、がん、摂食嚥下障害、低栄養が新たに加わりました。患者さんに寄り添い質の高い指導が求められます。9月からは入院前のオリエンテーション内で患者さんとの面談を開始しました。日頃の食習慣、アレルギーや嗜好を教えていただき、入院中の食事提供に役立てています。顔の見える関係が安心につながると考えています。まだ入院患者さんが中心ですが、今後は

　外来でも実施していきたいと思います。地域の医療機関や施設等とは、栄養士会を通じてサマリーの取り決めをして情報交換や連携を図っています。

　厨房は老朽化していますが、大量調理施設衛生管理マニュアルに沿って集団給食などにおける重要管理事項を実施し、毎日衛生日誌、点検を行っております。院内安全ラウンドや感染委員会における厨房内の立ち入り調査もあり、衛生面でも安全安心に努めております。

　これからも患者さんや地域の方にお役に立てるように他職種と協力して励んでまいります。

クリスマスランチ(^^♪

お正月スペシャルメニュー

大人気のカレーライス！

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

少し遅くなりましたが、令和5年最初の広報誌をお届けいたします。新型コロナには年末も正月も関係ないようで、県内あちこちの医療機関や介護福祉施設でもクラスターを伴う集団感染の知らせを聞き、その度に気を引き締めて感染拡大の予防対策を行う日々です。その過程で、ご紹介くださった医師会会員の先生方や患者さんにはご不便をお掛けしておりますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。　　【発行　地域連携室】